

第8回武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会傍聴者意見と回答

傍聴者	意見	回答
古武家善成	<ul style="list-style-type: none"> 資料7について、進捗状況に関する判定が出ている。これは自己判定と思われるが、自己判定で良いのか。第3者委員会等で判定する必要があるのでは。表中では少なくとも「自己判定」と書いておくべき。 進捗達成率の評価は難しいが、例えば予算執行率は使えないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 資料7では、定性的な目標となっている項目について◎○×のランク付けで表記しました。判定基準については記載の通りですが、事務局の主観判定とならないよう、取り組みがされたかどうかで判定しており、誰が判定しても同じ結果となるよう配慮しています。第3者会議での評価をとのご意見ですが、当懇話会がそれにあたるものと考えます。 複数の指標を提示するとわかりにくくなり、誤解を生じる恐れがあるため、予算執行率は示していません。
大島勤	<ul style="list-style-type: none"> 予備放流や利水ダムの治水活用などの実施シーンで、短期の天気予報の精度向上との連携が図られていると考えるが、アメダス、Xレイン等と連携することで、運用精度が何%向上したのか検証しているのでしょうか？ 是非そういった総合的な検証を公表していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 青野ダムの事前放流量拡大(20→40万m³)に際しては、これまでの試行結果の検証から事前放流開始予測雨量基準の見直しを行ないました。この予測雨量の算出は本県のダム操作支援システムで行なっています。このシステムは気象庁の降水ナウキャスト、降水短時間予報、MSM(メソ数値予報モデル)等をもとに算出していますが、気象データの精度向上によるシステムの運用精度への影響については検証していません。流域内の利水ダムについては、期間または通年の水位低下による治水活用を行っており、ゲート操作による治水活用ではないため、気象データを活用した予測精度の検討は必要ありません。
山本義和	<ul style="list-style-type: none"> 資料4の第2期(H28~R2)、第3期(R3~R7)に示されている「新規ダム継続検討」では、具体的に検討している内容を示してほしい。 潮止堰撤去工事にR3から着手される計画ですが、撤去に伴う河川改修が必要と思われます。どのようなことが計画されていますか？ 武庫川流域における降雨量の変化(資料8-1)を見ると、1時間雨量、24時間雨量についても、実測値では増加傾向が認められなかった。「先入観で考えてはいけない」と感じました。 行政、市民、研究者による三位一体が武庫川の総合治水でも重要です。その意味では、市民や研究者の取り組み紹介が少ないと思いました。 全体としては武庫川水系の流域総合治水がほぼ順調に進んでいると感じています。ありがとうございます。治水と環境保全の両面からの取り組みを引き続きよろしく。 	<ul style="list-style-type: none"> 第2期の新規ダムにかかる検討は、峡谷環境調査のモニタリングを継続している以外は行なっておりません。 潮止堰撤去工事はR7着手の予定です。撤去にあわせて、当該箇所の低水路拡幅工事や河床掘削工事を計画しています。また、1号床止撤去に伴う河床掘削により上流区間の低水護岸の根入れ不足が生じますので、根継工も計画しています。 今後も情勢に適応した情報発信に努めます。 市民参加の取り組みについては、武庫川流域圏ネットワークの外来種駆除の取り組みを点検表に記載しています。ほかには自治会実施による避難訓練やアドプトなども掲載していますが、紙面の都合で具体の取り組みが紹介できていません。研究者との連携では、アユ遡上調査や環境2原則による川づくり計画に則った河床掘削実施等において、ご指導いただいています。これについても紙面の都合で簡易な表記となっています。 今後も河川整備計画に基づく総合治水対策を着実に推進していきますので、ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。